

文学・絵画・舞踏と、音楽の出逢いを。

前回開催した、「～青少年のためのレクチャー・コンサート～ 大作曲家たちの友情と反目」に続いて、今回のテーマは「音楽の楽しみ」。第1部は文学や絵画と深い関係のある作品、第2部はヨーロッパの舞踊音楽を取り上げます。

ヴィヴァルディ作曲の有名な四つのヴァイオリン協奏曲「四季」は、それぞれの季節の自然描写や人間の営みの情景を、音に見事に置き換えて表現していて、「標題音楽」というジャンルにおける音楽史上最初の、そして最も成功した例と言えるでしょう。私が毎年秋に行っている国際教養大学の講義でも、この作品を取り上げ、詳細な分析でヴィヴァルディの独創的な音による情景描写の手法を解説していますが、ここでは「冬」の第一楽章を取り上げます。その他、ポーランドの大作曲家シマノフスキの描く神秘的なギリシャ神話の物語、オーストリア生まれの神童で後にハリウッドで大成功したコルンゴルトの描くシェイクスピアなど、音のみでいかに精緻にストーリーや情景を描いているかを聴いて頂きます。ピアノのソロ曲も取り上げ、ムソルグスキーの「展覧会の絵」からユーモラスなひよこの描写を、ピアニストの江口さんに演奏と解説をしてもらいます。

後半は音楽の最も自然な形態ともいえる舞踊を取り上げ、ワルツ、ハバネラ、タンゴ、ポロネーズなどの舞曲を中心に、それぞれのスタイルの特徴や魅力、歴史的な背景なども見ていきます。フィナーレは、ショパンのポロネーズのピアノ独奏に引き続いて、ヴァイオリンという楽器の最も得意とする情熱的で奔放なロマのダンス音楽を用いたラヴェルの名曲「ツイガース」で締めくくります。

レクチャーも含め休憩のない75分のコンサート、ホールの素晴らしい音響の中で名曲の数々を聴いて頂くことは、ヴァイオリンやピアノの音色の美しさや表現の多彩さ、そしてクラシック音楽の魅力を青少年の皆さんに深く知っていただくことのできる大変貴重な機会です。皆さんの参加をお待ちしています。

(渡辺玲子)



©Yuji Hori

Profile

渡辺 玲子(ヴァイオリン)

Reiko Watanabe, Violin

超絶的なテクニック、玲瓏で知的な音楽性、切れ味鋭い官能性と幅広いレパートリーで、世界のヴァイオリン界をリードする逸材。1984年ヴィオッティ、86年バガニーニ両国際コンクールで最高位を受賞。以来、ロンドン、ウィーン、ドレスデン、ワシントン、ロサンゼルス、サンクトペテルブルクなど世界のオーケストラと共演。ニューヨーク在住。日本音楽財団よりストラディヴァリウス1725年製「ウィルヘルム」を貸与されている。

公式ウェブサイト <http://www.reikowatanabe.com>

江口 玲(ピアノ)

Akira Eguchi, Piano

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。ジュリアード音楽院のピアノ科大学院修士課程、及びプロフェッショナルスタディーを修了。欧米及び日本をはじめとするアジア各国でのリサイタルや室内楽、協奏曲等で活躍する他、数多くのヴァイオリニスト達と共演を重ねている。

現在、洗足学園音楽大学大学院客員教授、東京藝術大学ピアノ科准教授。ニューヨークと日本を行き来して演奏活動を行っている。

公式ウェブサイト <http://www.akiraeguchi.com>

Program

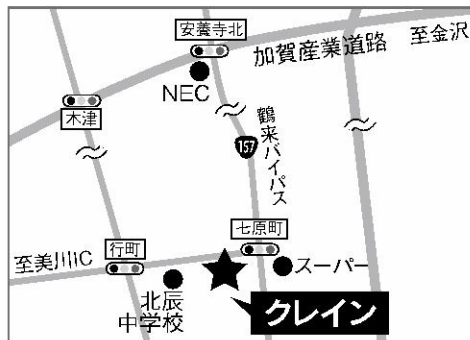
Part1 音のバレット—文学、絵画から音へ

ヴィヴァルディ	「四季」より「冬」第1楽章
シマノフスキ	「神話」より1. アレトウサの泉(ギリシャ神話)
コルンゴルト	組曲「から騒ぎ」作品11より 「ドグベリーとヴァージェス(夜襲の行進)」(シェイクスピアの劇)
ムソルグスキー	「展覧会の絵」より「卵の殻をつけた雛の踊り」(ハルトマンの絵)※

Part2 ダンスと音楽

チャイコフスキー	「六つの小品」作品51より「感傷的なワルツ」
ラヴェル	ハバネラ形式の小品
カルロス・ガルデル(ジョン・ウィリアムズ編)	タンゴ(ボル・ウナ・カベサ)
ショパン	ポロネーズ イ長調 作品40-1 「軍隊」※
ラヴェル	ツイガース

※ピアノ独奏



- ・やむを得ない事情により、曲などが変更になる場合がございます。
- ・演奏中は入退場できません。
- ・場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は固くお断りいたします。
- ・未就学児の入場はご遠慮下さい。